

より多くの方がより快適に住みつづけるためには

「住まいに関するアンケート調査」がまとまりました



昭和45年に入居が始まった藤の台団地。現在は3200世帯、7600の方がお住まいです。

町田市は、「団地のまち」とよく言われます。人口の約14%、5万人を超える方が団地に暮らしており、団地は町田市の顔の一つと言えます。しかし、その団地の多くは、建設後長い年月を経ており、社会・経済状況や人々のライフスタイルの変化に伴い、解消すべき課題が生じてきています。

そこで、市では、庁内の職員で構成する「団地白書21プロジェクトチーム」を設置し、団地を主な対象として「より多くの方が、より快適に住みつづけるためには何が必要か」をテーマに検討を重ねています。このプロジェクトの一環として、団地にお住まいの方々のお考えを聞かせていただき、検討の参考とするためアンケート調査を実施したところですが、このたび、ご回答いただいた990世帯のアンケート内容が「住まいに関するアンケート」調査報告書としてまとまりましたので、その概要をお知らせします。

お問い合わせは、政策審議室（☎724・2503）へ。

表1 「今の住宅を選んだ理由」

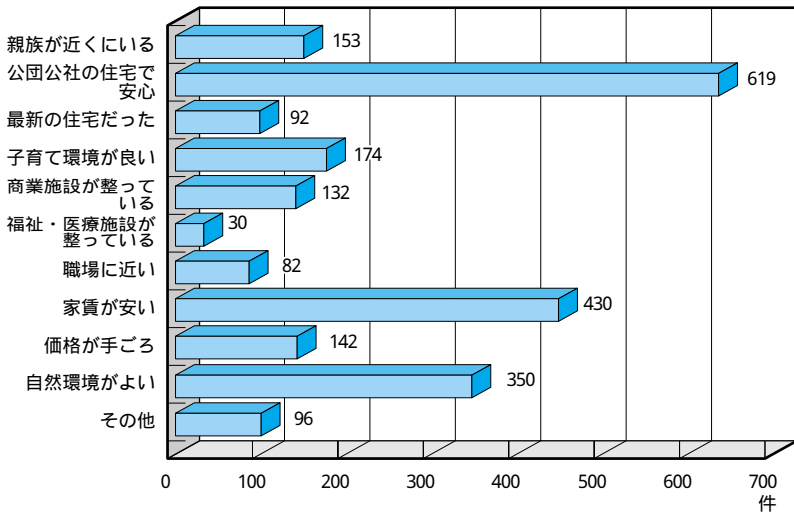


表3 「住み続けたい」理由

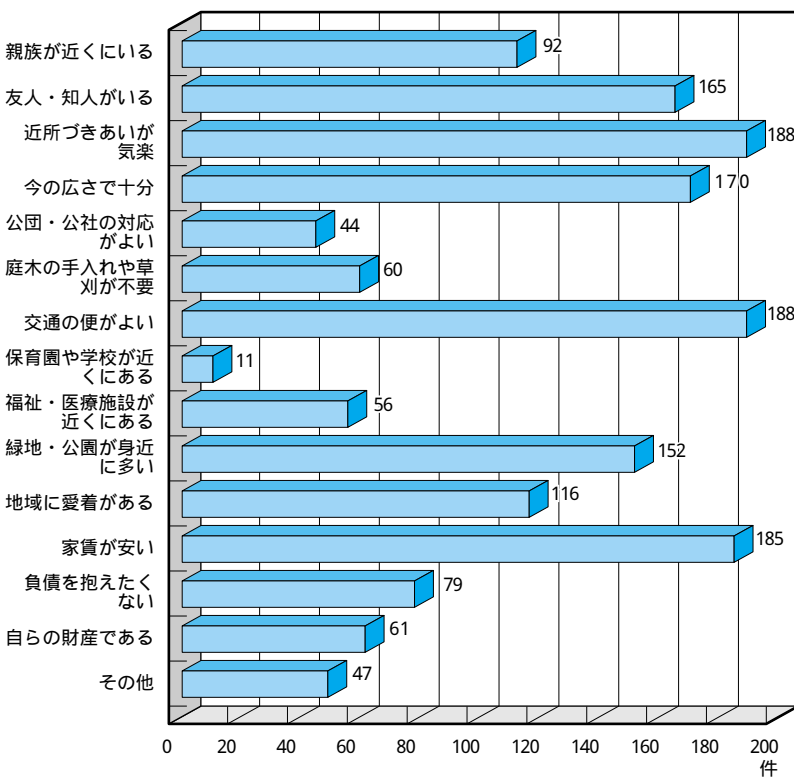
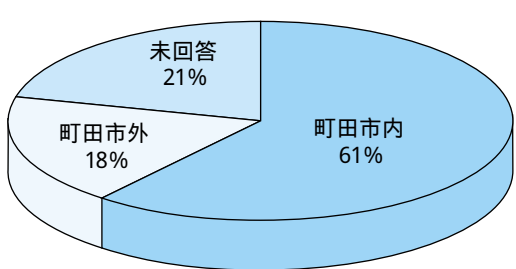


表6 「転居先として希望する市町村」



「住み続けたい」と回答した方に、その理由を質問したところ、「近所づきあいが気楽」、「交通の便が良い」、「家賃が安い」等の回答が多く、その他住み続けたい理由は多岐に渡っています（＝表3）。

「転居先として希望する市町村を聞いたところ、「町田市内」を希望する人が6割以上に達しました（＝表6）。

「転居先として希望する市町村を聞いたところ、「町田市内」を希望する人が6割以上に達しました（＝表6）。

「転居先として希望する市町村を聞いたところ、「町田市内」を希望する人が6割以上に達しました（＝表6）。

「転居先として希望する市町村を聞いたところ、「町田市内」を希望する人が6割以上に達しました（＝表6）。

表2 「住み続けたい」意向

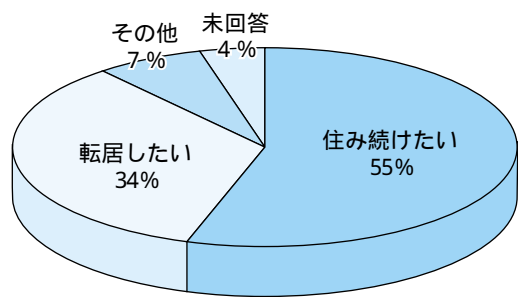


表4 「転居したい」理由

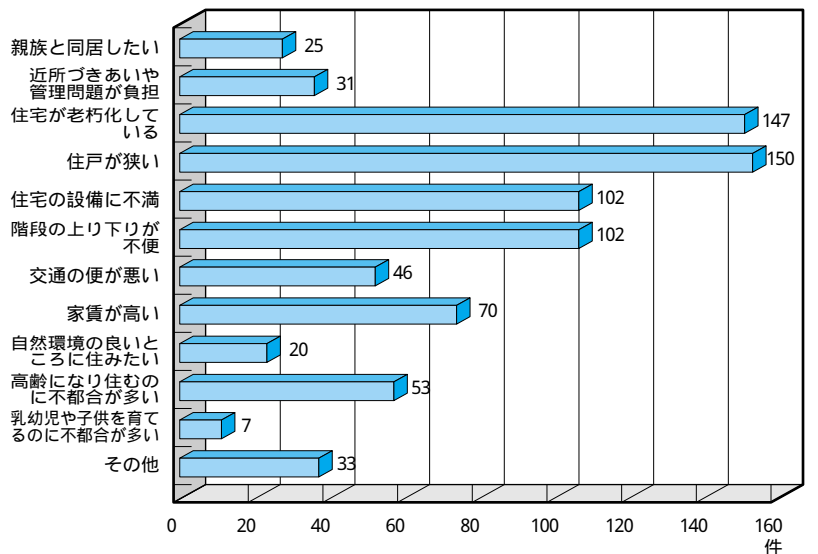
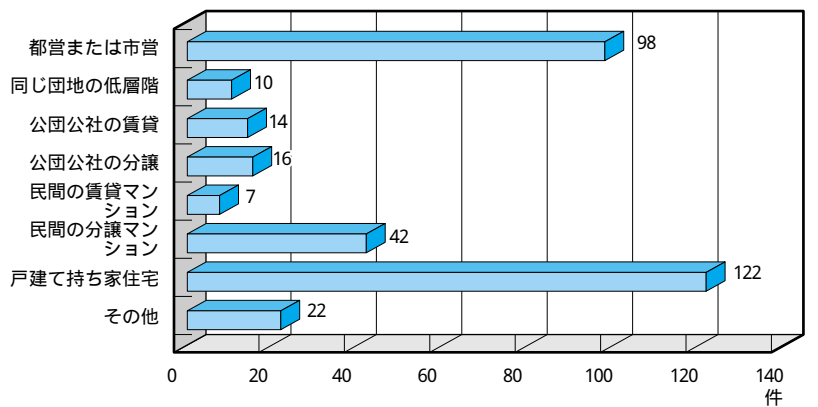


表5 「転居先として希望する住宅」



「今の住宅を選んだ理由は、「公団公社の住宅で安心だから」今の住宅を選んだ理由は、「公団・公社の住宅で安心」が最も多く、次いで「家賃が安い（賃貸）」、「周囲の自然環境が良い」となっており、公団・公社に対する信頼感が伺えます（＝表1）。

「住み続けたい」意向は、「住み続けたい」が半数以上、「転居したい」が半数以下、「その他」が7%、「未回答」が4%です。

「転居したい」理由として、「住戸が狭い」が最も多く、住宅の設備に不満、階段の上り下りが不便、交通の便が悪い、家賃が高い、自然環境の良いところに住みたい、高齢になり住むのに不都合が多い、乳幼児や子供を育てるのに不都合が多い、その他が挙げられています。

「転居先として希望する住宅」は、「戸建て持ち家住宅」が最も多く、民間の分譲マンション、都営または市営住宅、公団公社の分譲、民間の賃貸マンション、公団公社の賃貸、同じ団地の低層階、その他が挙げられています。

「転居先として希望する住宅」は、「戸建て持ち家住宅」が最も多く、民間の分譲マンション、都営または市営住宅、公団公社の分譲、民間の賃貸マンション、公団公社の賃貸、同じ団地の低層階、その他が挙げられています。

「住まいに関するアンケート調査」販売しています。「住まいに関するアンケート調査」報告書の閲覧と販売（一部200円）は、市政情報「やまびこ」（中町分庁舎1階）で行っているほか、中央図書館でも閲覧することができます。